

熊本の軍人像

～戦没者を慰霊し、未来へつなぐ 石の聲～

「藍色の海」を見下ろす天草島の高台
墓地には、

石造りの軍人像たち

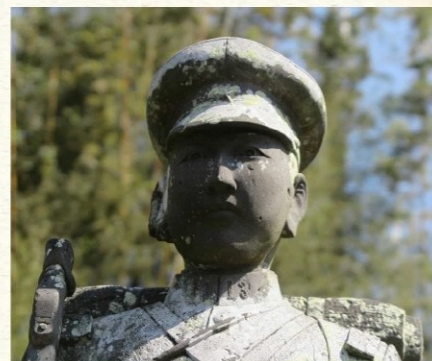
がたたずんでいる。

日中戦争や太平洋戦争で

亡くなられた父や兄達を

慰霊する石像たちである。

そこに込められた「平和への思い」の聲（こえ）を
私たちは聞き、つむいでいきたい！



□ 慰霊の軍人像

軍人像とは、明治以降の近代戦争で亡くなった軍人を慰霊・顕彰する目的で製作・設置された像である。戦争遺跡研究会清水啓介氏の設置形態を基にした分類では「**個人慰霊軍人像・個人顕彰軍人像・集合軍人群像**」の3分類がなされている。

また、軍人像材質は「屋外建立では銅製・コンクリート製・石製で、屋内安置は木製」であり、個人慰霊軍人像は「父・母・兄等遺族による建立が全てで、設置場所は墓地や個人敷地内が多い」、個人顕彰軍人像は「建設会や顕彰会等団体による建立が多く、神社や寺院境内が多い」ことが確認されている。

古来より「武運長久を祈る神」が、近代で「武勲を立て勇敢に戦死した軍人が神格化」した「軍神像」とは区別する。

□ 熊本県内の事例

熊本県内個人慰霊軍人像事例では、天草市栖本町に五体（**山崎家・福原家・玉田家・前田家・林邊家**）、同市河浦町に「一体（**本多家**）」、上天草市龍ヶ岳町大道に「一体（**太田家**）」、天草市本渡町に「一体（**原田家**）」、天草市栢宇土町に「一体（**岩永家**）」、上天草市松島町・大矢野町（**藤本家・山本家・嶋崎家**）の「三体」、天草市倉岳町（**岳本家**）の「計十三体」が確認されている。また、人吉市城本町（**内山家**）に「一体」、八代市泉村久連子（**中村家・川野家・上田家・仲川家**）に「四体」が、さらにコンクリート製軍人像が八代市郡築町（**嶋崎家**）、井揚町（**岩崎家**）、千丁町（**石川家**）にコンクリート製「三体」、戦後建立であるが芦北町上井牟田（**上村家**）「二体」の「計十体」の軍人像所情報が確認できる。県内では「計二十三体」が遺存する。



天草市栖本町の圓性寺にたたず「軍人像二体」

□ 県内の石工

熊本県内には、通潤橋を造作した種山石工をはじめ、多様な石工集団が所在する。ここ天草では下浦町に、「加工しやすい砂岩と良港に恵まれた」ことから、およそ300年の歴史を有する「**下浦石工**」の集団がある。19世紀以降は、下浦産砂岩の需要が急速に高まり、建築資材として社寺の参道敷石の提供が行われ、それは本渡「祇園橋」で結実する。本軍人像の幾つかは、「**下浦石工集団**」による造作による物である。

併せて、戦死・戦没者への慰霊の姿、天草地域の祖先・先祖崇拝への意識の高さ、濃厚さ等が墓地の立派さとして表出され、「天草地域での屋外に設置された石製軍人像の集中」に関わったものと想定できる

天草市文化課
松本博幸氏及び
くまもと戦跡ネ
ット高谷和生作成

天草の軍人像 位置図



天草市本渡町本泉



天草市栖本町湯船原



上天草市大矢野町中



登立天満宮
「大山 巖」像



上天草市松島町合津



天草市宇土町



上天草市松島町阿村



天草市下浦町外園



上天草市龍ヶ岳町大道



天草市河浦町立原



天草市栖本町馬場



天草市栖本町湯船原



天草市栖本町湯船原



天草市栖本町古江



市民グループ くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク

〒865-0061 熊本県玉名市立願寺 126-5

事務局 高谷和生方

<https://kumamoto-sennseki.net>

令和 7年 8月 5日版